

# 皇宮警察改修工事 2007



# 皇宮警察改修工事



## 枢密院庁舎 修繕始まる

皇居の片隅で人知れず荒れ果てていた枢密院庁舎の写真、皇宮警察提供がよみがえることになった。関東大震災の前々年に建てられ、正面玄関はギリシャ神殿風の重厚な柱。玄関ホールに足を踏み入れると、色鮮やかなステンドグラスに出迎えられる。だがさらに中に進むと、屋根からは滴のような雨漏りがし、壁紙は垂れ下がっており、お化け屋敷のような惨状だ。建物を所有する皇宮警察本部が、今夏から本格的な修繕作業に乗り出した。

(三橋麻子)

枢密院は、大日本帝国憲法下で、天皇の最高諮問機関だった。当初は、いまの国会議事堂の敷地内にあったが、議事堂建設のため皇居内に移ることになり、1921年に鉄筋コンクリート

ト2階建ての現庁舎が完成した。

建物を調査した藤岡洋保・東工大大学院教授によると、国会議事堂と同じ担当者が設計に参加しており、正面玄関にパルテノン神殿にみられる「ドリス式」の柱を使ったり、屋根を四角すいにしたりするなど、同時期に建設が始まった国会議事堂と同じモチーフが使われている。「重厚さを漂わせる古典様式の中で時代の最先端を意識したデザイン」(藤岡教授)という。

庁舎は、関東大震災や戦時の空襲も乗り越えた。戦後は、最高裁や法務省が使ったあとを皇宮警察が引き継ぎ、本部庁舎として使っていた。しかし老朽化が進んだため、昭和50年代に皇宮警察本部は隣接地に移転。空き家となった庁舎は取り壊されることになり、そのための予算もついた。しかし、日本建築学会が保存を要望。取り壊し計画は凍結されたまま、庁舎は荒れ果てた。

いまでは木造の屋根が腐食し、これ以上放置すれば建物として「限界」と決断を迫られた皇宮警察本部が、音楽隊の練習場として再活用する方針を決めた。当時の状態が残っている会議室はそのまま保存し、議長室などにあるアールヌーボーの意匠がある扉ははずして保管する方向だという。

## 大正最先端の意匠 腐食、存続へ「限界」

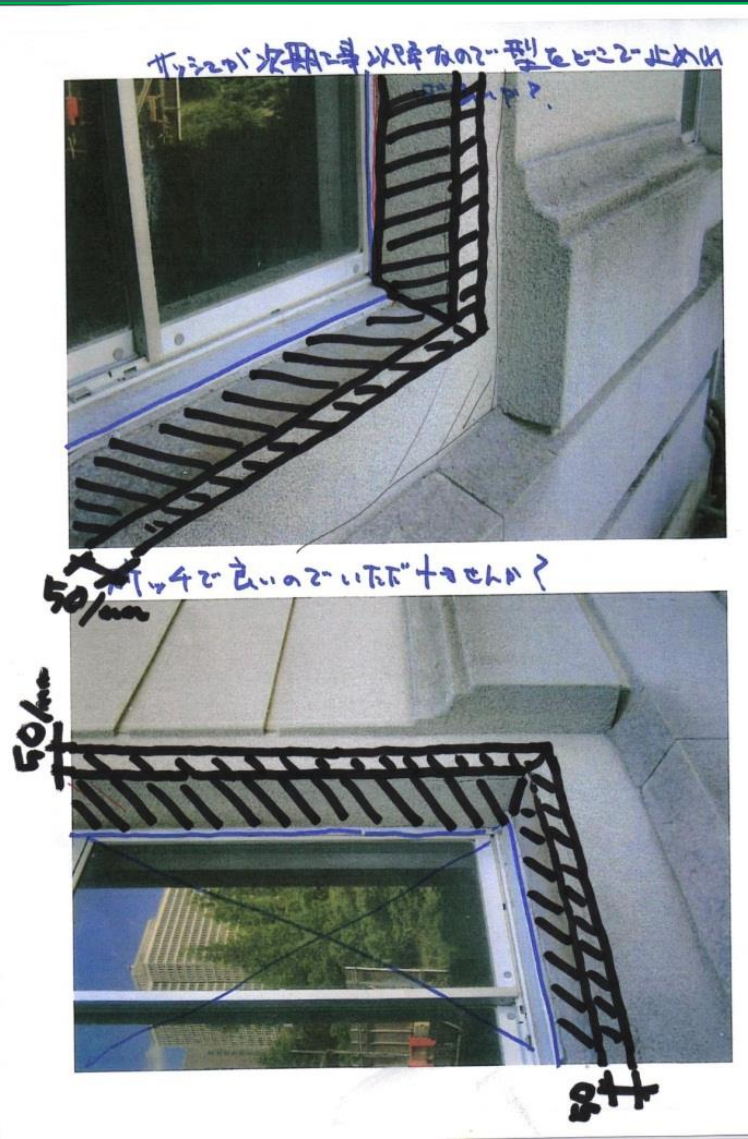
# 皇宮警察-改修前-



# 皇宮警察-モルタルの落下-



# 皇宮警察-装飾レリーフ-



# 皇宮警察-EPSの施工-



# 皇宮警察-仕上げ-



# 皇宮警察-改修後-

